



令和8年度 学校教育目標

自ら学び続ける意欲と
思いやりの心もち
たくましく生きる児童の育成



学校・家庭・地域で「褒めるべきは褒める」「叱るべきは叱る」

明るい陽射しが降りそそぎ、希望に満ちた春。

緑をうつす校庭に、子どもたちが帰ってまいりました。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃より、本校教育活動の推進に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに心よりお礼を申し上げます。

本日、2年生から6年生が着任式と始業式を行い、9日(木)の入学式には、39名のかわいい1年生を迎えます。全校児童214名による令和8年度のはじまりです。入学や進級の喜び、新たな出会いへの期待や緊張感、一人一人がそれぞれの思いを胸に登校してきたことと思います。私ども教職員は、そうした子どもたち一人一人の心に寄り添いながら、倉二っ子の健やかな成長のために、一層努力していきたいと決意を新たにしました。

そのために大切にしたいのは「褒めるべきは褒める」「叱るべきは叱る」ということです。

昨年度、こんなことがありました。放課後に友達のところ遊びに行こうとした児童が、ご自宅の庭で倒れられたご高齢の方を助けたのです。この春休みには卒業生が運動場に捨てられていたごみを拾ってくれました。一方、自転車の走行や公園での遊びにおいて、自分たちの楽しさを優先させてしまったり、周りの迷惑となる遊び方になってしまったりすることもありました。

間違いや失敗がないに越したことはないかもしれませんが、間違いや失敗を通して学ぶこともたくさんあります。学校でも教科学習以外に、公共マナーや道徳性など子どもたちへの指導を行っておりますが、地域で子どもたちがいいことをしていたら「褒めるべきは褒める」、自分勝手なこと、迷惑のかかることをしていたら「叱るべきは叱る」をしていただけると、子どもたちも「やっぱり、これはいいことなんだ」「これはだめなことなんだ」と、学びを深めることができます。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの健やかな成長をはぐくんでいくことができればと思います。

保護者・地域・関係機関の皆様には、何かとお世話になることと思いますが、昨年までと同様、ご支援・ご協力をよろしくお願い申しあげ、年度初めのご挨拶とさせていただきます。

校長 伊藤 茂
教職員 一同